

第1学年〇組 学級活動学習指導案

1 題材名 気持ちを言葉で表そう～相手のことを考えてコミュニケーションしよう～ 「オ 望ましい人間関係の確立」

2 題材について

(1) 生徒観

2学期が始まり、2か月が過ぎようとしている。生徒は日直の仕事、係活動、清掃活動などはやらされている感が強いようで、決められたことについては何とかできるものの、他者と協力して意欲的に取り組んでいるとは言えない。また、日常的に手を抜いている生徒もおり、このまま放置しておけば、きちんと仕事や活動を行っている生徒の意欲が低下しかねない。

状況を変えようと声掛けをする生徒の姿も見られるが、言葉遣いが威圧的、攻撃的になっているため相手を萎縮させてみたり、あるいは相手が上手に気持ちを伝えようとしているにもかかわらず、初めから聞こうとしない態度を見せたりすることもある。

コミュニケーションを成立させるためには、双方向性が大切であり、双方向性を可能にするような相互理解が欠かせないように思う。相手を理解しようとする気持ちが十分にもてない生徒が少なくないのが現状である。

(2) 題材観

アサーションなどの学校の中で行われるスキル学習では、限られた時間で微妙な人間関係まで教えることは困難である。また、スキル学習は一般に般化と持続に壁があると言われている。一度スキル学習で身に付けたスキルも別の状況や環境ではうまく機能しなかったり、同じ集団でも時間がたつごとにスキル学習以前の不適切な状況に逆戻りしたりしている場面も見られる。

本題材の「相手のことを考えてコミュニケーションしよう」をそれぞれの生徒が続けていくには、個々の生徒に必要なスキルを身に付けさせるとともに、学級内でそれらを使っていくことで学級の人間関係がよりよくなることを実感することが大切である。一人一人の生徒が学級集団に対する所属意識や自己肯定感を高める必要がある。気持ちよい伝え方を継続していきたいと思えるような集団づくりが必要である。そのためには、本題材を生徒の自治的な話し合いにより解決に導くことは、題材を自分たちの問題として共有化し、今後の学級生活をさらに豊かにしていこうとする意欲につながる好ましい題材であると考えた。

(3) 指導観

ア 話し合い活動を取り入れる意義

指導に当たっては、本題材を自分たちの問題として共有化し、自治的な話し合いにより解決に導くために、話し合い活動の形態を取りたい。また、話し合い活動の形態を取ることで、学級の諸問題を自分で見つけ解決しようとする意欲を高めたい。さらに話し合い活動の形態では、友達の考えを最後まで聞き尊重しようとする態度や、めあてを意識しながら自分の考えを整理したり、考えを分りやすく伝えたりしようとする態度も育てられると考えられる。

イ 事前指導

話し合いの柱を事前に知らせ、生徒に前もって考えをもたせておくことで、本時の話し合いに全員が参加できるようにさせたい。同時に、話し合いカードに意見を書かせ実態をとらえることで、本時での助言・援助に生かせるよう配慮したい。話し方に関する問題を学級内で共有化するためにアンケートを実施する。個人の問題だけでなく学級の問題として取り上げるためにアンケートを取り、本題材について自分や学級を見つめたり、気付いたりする期間を設ける。取ったアンケートは授業の最初に紹介することで、何について話し合うかを明確にする。また、事前に考えていた自分の考えとアンケートの結果を比べることで、自分の考えと学級みんなの傾向を比べる時間を設けるようにする。

ウ 本時の指導

本時の指導に当たっては、まず今の自分や学級を振り返る時間を設けることで、実態を共有化する。今の学級は相手のことを考えてコミュニケーションしているかについて問題意識をもたせたい。

次に相手のことを考えてコミュニケーションすることの必要性を考えさせる。そのことで自分

だけでなく、みんなも相手のことを考えてコミュニケーションすることが必要だと思っているという安心感をもたせたい。また、友達の意見を聞くことによって価値を高めるとともに相手のことを考えてコミュニケーションすることの必要性に対する視野を広げたい。

そして解決策を発表させる。知恵を出し合うことで、自分の考えだけでなく友達の考えを参考にすることができるようにするとともに、自分のめあてを考える際に、自分に合った方法を友達の考えからも選べるようにする。最後に行動のめあてを掲示したり、宣言をさせたりすることで実践への意欲を高めさせる。そのことで実践活動を行う際に声を掛けながら励ましあえるようにしたい。

エ 事後指導

帰りの会などの時間を利用し、取り組みについて発表したり、振り返ったりする時間を設けた。がんばったことを友達から称賛されることで自己肯定感を味わい、今後の実践への意欲をさらに高めたい。また、友達のがんばりに目を向けることで、自分の周辺だけでなく、学級全体を考えて、孤立しがちな友達に目が向くようにしたい。本題材で相手のことを考えてコミュニケーションすることを強く価値付け、今後の実践へのモデルとしたい。また、そのことにより、みんなが何かに取り組みたいという意識が高まるようにしたい。

3 題材の目標

学級内における「気持ちのよい伝え方ができているか」の問題を自分の問題としてとらえ、コミュニケーションによる言葉のやり取りの大切さに気付くとともに、問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。

4 指導計画（*提→提案者，司→司会グループ）

	全体の流れ	活動のための支援	評価
事前活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「気持ちのよい伝え方ができているか」についてのアンケート調査（全員） ○ 題材決定（提案者） 「相手のことを考えてコミュニケーションしよう」 <p>【第1回計画委員会（提・司）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材名の工夫と活動計画の作成 ・ 役割分担 <p>【第2回計画委員会（司）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いのめあて，柱を決める。 柱1 今の様子 柱2 必要性 柱3 解決策 <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動計画表（原案）の配布。 <p>【第3回計画委員会（司）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合い活動の準備と打ち合せ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「気持ちのよい伝え方ができているか」について学級会で話し合うことを知らせる。 ・ 提案者の思いを入れるために，計画委員と学級担任と一緒に考え，助言する。 ・ クラスの実態を報告するためのアンケートをまとめる。 ・ 計画委員と学級担任と一緒にめあてと柱を考える。何のための話し合いかを提案理由を元に生徒と一緒に考え，話し合いのめあてに生かすように助言する。 ・ 事前に原案を配布し，自分の考えをもたせておくことで話し合いに意欲的に臨めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりすることに興味をもち，自分の考えをもととする。 【関心・意欲・態度】
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動（1/1，本時） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうしたらもっと相手のことを考えてコミュニケーションができるようになるかみんなで考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動の後に決めためあてを書く（自己決定）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級で取り組むことが決まり，係が必要な場合は係を決め，役割分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりするめの自分のめあてを決めることができる。 【思考・判断・実践】
実践・振り返り	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>10月26日から自分のめあてや学級で決めたことを実践していく。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを意識して実践させるため，書かれた自分のめあてを教室に掲示する。 ・ 自己決定をしたことを基に，個人として努力し目標の実現を目指した成果について振り返り，評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話したり活動したりすることの大切さを理解することができる。 【知識・理解】

5 本時について

(1) 本時の目標

全員がもっと相手のことを考えてコミュニケーションができるようになる方法を学級全体で考えることで，今の自分や学級の実態を踏まえ継続して取り組めるような自分のめあてを決めることができるとともに，問題解決のために自己決定した自分のめあてを守るよう努力することができる。

【思考・判断・実践】

(2) 本時の展開

<p>題材</p>	<p>「どうしてももっと相手のことを考えてコミュニケーションができるようになるかみんなで考えよう。」</p>	
<p>提案理由</p>	<p>1ー〇は、いろいろな行事を通してだんだんとまとまりのあるクラスになってきました。休み時間には、気の合う友達と楽しく過ごしたり、学び合いの授業では互いにアドバイスしたりしています。しかし、まだ心ない言葉を聞いたり、初めから相手の話を聞こうとしない場面を見ることもあります。</p> <p>そこで、もっと相手のことを考えてコミュニケーションができるようになるなら、絆がいつそう深まり、笑顔があふれるクラスになると思い提案しました。</p>	
<p>話し合いのめあて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のいい意見を取り入れ、クラスのためになる自分のめあてを考える。 ・ クラスメートがどのような思いで言葉掛けをしたり、話しを聞いたりしているのか考えながら聞く。 	
<p>時間</p>	<p>話し合いの順序</p>	<p>指導上の留意点（◆は本時の評価）</p>
<p>6分</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 題材と提案理由、話し合いのめあての確かめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に司会グループと打ち合わせをし、話し合いの進め方について理解を深める。 ・ 司会にめあてを読ませ、内容を全員で確認することで、めあてを意識して話し合いに臨むようにさせる。
<p>10分</p> <p>5分</p> <p>15分</p>	<ol style="list-style-type: none"> 4 話し合い <p>柱1 「1年〇組は相手のことを考えてコミュニケーションできていますか。」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分のことについて発表する。 ② 1年〇組みんなのことについて発表する。 <p>柱2 「相手のことを考えてコミュニケーションすることはどうして大切ですか。」</p> <p>柱3 「相手のことを考えてコミュニケーションするにはどうしたらよいですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の見通しをもって話し合いを行うために、時間配分を提示する。 ・ 柱1の話し合いで、マイナス面ばかりが出ているときは、プラス面を出すように助言し、気持ちをみんなに共感させる。 ・ 自分のことを振り返らせておくことで、柱3の後で自分にあった行動のめあてを選択できるようにする。 ・ 柱1の発表の後、今の様子を深く考えさせるために、アンケート結果を伝える。 ・ 個人でできることと学級全体でないとできないことに分けて板書させることで、その後の自己決定を行いやすいようにさせる。 ・ 柱1で出た意見を振り返ることで、今の自分や学級の実態に合うような方法を考えさせる。
<p>14分</p>	<ol style="list-style-type: none"> 5 決まったことの確認 6 話し合いの気付き・自分のめあて <p>7 ニコニコ賞の発表</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの後、もっと協力するためのめあてを書かせることで、話し合いの振り返りをさせるとともに、事後の実践活動への意欲を高めさせる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 今の自分や学級の実態を踏まえ継続して取り組めるようなめあてを話し合い、振り返りカードに記入することができる。【思考・判断・実践】(カード)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会グループの生徒や話し合いのめあてに沿って話し合いに参加していた生徒を称賛することで、実践活動や次回話し合いへの意欲を高めさせる。